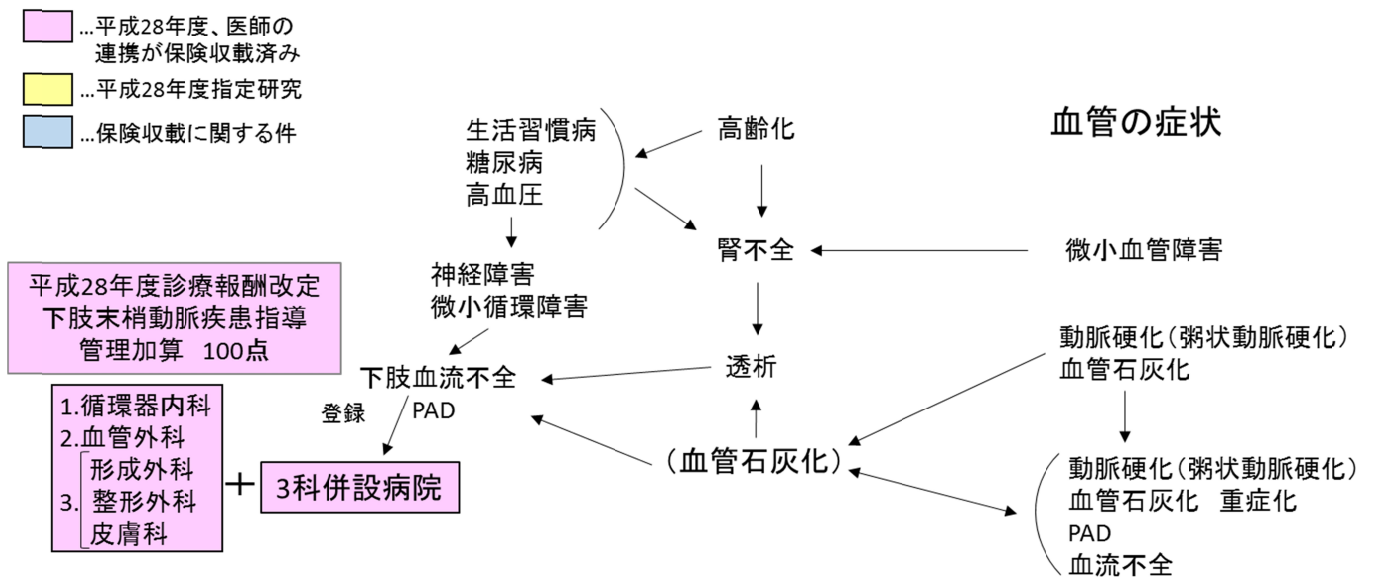


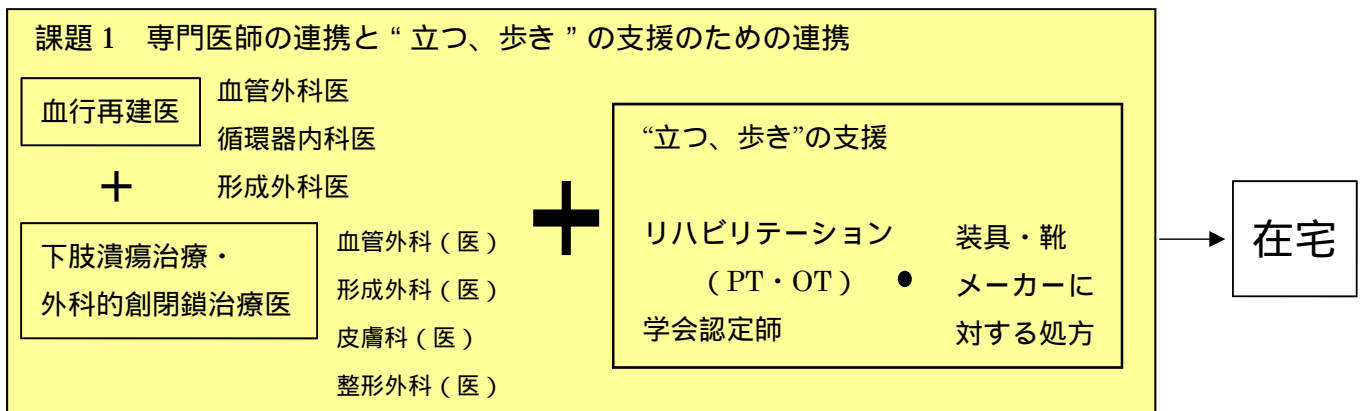
9.今後の課題

平成 28 年度は、慢性期維持透析患者の下肢末梢動脈疾病について、下肢の血流障害を適切に評価し、他の医療機関と連携して早期治療を行うことを課題とする。

下肢末梢動脈疾患指導管理加算 100 点（1 月につき）が下肢末梢動脈重症化予防評価として新規に追加された。これを足がかりとして、平成 28 年度研究を行う。その流れは次の図の様である。

平成28年度 下肢・足病研究流れ図





課題1の解説

- 1.連携する場合としない場合とでは Final goal である“歩き”を達成するまでにどの程度の違いがあるかについて調査する。積極的に足病治療を行っている病院において調査する。
- 2.重症下肢虚血肢 (CLI) の中で R5、R6 について治癒期間と在院日数を調べる。更に血流の有り、無し 血行再建あり、未施行のグループの差がどの程度あるかについて調査する。
- 3.(株)ミレニアと共同研究を行い、ミレニアのもつ 17 施設、10 年間の症例、約 1 万人のデータを共同で解析する。
- 4.血行再建を行い、その後、再拘縮した患者がどのような転機をたどるかについて調査する。それにより EVT の限界あるいは適応を定めたい。その際レーザースペックルフローグラフィ等による血流系の評価を行い、これらを用いて判定可能かについて検討する。

課題2 平成 28 年度診療報酬改定に関する課題

- A)慢性維持透析患者・連結患者における四肢切断数と四肢切断に至る要因について多変量解析を行い、要因を抽出し下肢重症化予防、早期治療を検証する。
- B)平成 28 年度診療報酬改定の効果調査
下肢切断をどの様に回避できたかを調査する。

課題2

- A)慢性維持透析患者の中で、昨年の研究と同様に連結出来た症例について多変量解析を行い四肢切断の要因とそれに至るまでの要因を検出する。それにより下肢重症化予防を効率よく行う。

B) 診療報酬改定の効果調査

血行再建病院に紹介された透析患者自身に申告させる（一般社団法人 全国腎臓病協議会を通して依頼する）。また、アンケートを取り、そのデータの分析をする。

課題 3

非侵襲レーザースペックルフローグラフィーを用いて血流ならびに動脈硬化の客観評価を行う。

（血行再建のアウトカム評価。併せて動脈硬化との関係も評価検討する。）

課題 4

末期腎不全の治療法の一つである腎移植（献腎移植）についての実態調査と各治療法との患者の QOL の比較並びに医療費削減にどの様に貢献するかについて検証する。

課題 5

課題 1、2 を達成するため、次の件につき保険収載を提案する

- A) 下肢血行障害による歩行機能回復を目的とした下肢創傷処置に関し、免荷や装具合わせしながら創閉鎖を行うことを評価し、診療報酬を設定する
- B) レーザースペックルフローグラフィーによる血流測定の設定
- C) 装具、オーダーメイド靴の供給について診療報酬の設定